

一般質問

■地域づくり協議会について

地域づくり協議会が自らの力と機能で立ち向かっていく組織に！

桂議員 合併して13年経過し、特に今は新しい仕組みとしてコミュニティの必要性を強く感じているところで、地域づくり協議会が自らの力と機能で、この変貌する社会に対応していくためにも、どのような組織でどのような姿であるべきか。

不嶋市長 市では交付金などを準備して、地域づくり協議会への取り組みを支援しており、各部会の連携を密にして地域の実情などを踏まえた事業を主体的に進めていただくことを期待している。今後は協議会が自立性を高める法人化や組織の指定管理者となつて拠点施設を責任もつて管理・運営することに進化・発展していくのではないかと考えている。しかし、まだ各部会において、熟度の差がある段階だと思つている。今後、一つ一つステップアップし活動を検証していく中で、市役所のように一元化した組織にまで進化していくことを期待している。当分は、各部会が競争しあいながら取り組みを進めていくことが大事で、その取り組みの中で組織体制の一元化の方向性もおのずと見えてくるのではないかと考えている。地域づくり協議会は、地域を経営する重要な役割を担う団体であり、地域でトータルに共助の部分をしっかり担う拠点的存在になることを願っている。



桂 徹男 議員 (灘会)



能登島地域づくり協議会の新聞

一般質問

■ゲリラ豪雨対策について

ゲリラ豪雨の被害最少化を前進させよ！

山崎議員 ①8月25日のゲリラ豪雨の被害状況はどうだったのか。②ゲリラ豪雨の発生頻度が増え、河川改修計画の早期事業化は、住民から強く切望されている。事業化促進に向け、どのような思いなのか。③ゲリラ豪雨被害を最小化することが重要であり、簡易ポンプの設置や河川上流部の清掃、点検など、行政が継続的にしっかりと取り組む必要があるのではないかと。

不嶋市長 ①住宅の床上浸水1件、床下浸水31件、非住家床下浸水15件、道路被害32件、河川被害13件、がけ地崩壊被害2件、農道のり面崩壊被害9件、農地被害14件である。②今後の取り組みとしては、補助制度の活用も頭に置き、国や県との調整も進めていきたいが、費用が多額であり、事業期間も10年以上は少なくともかかる。下水道の汚水整備も進めていかなければならない事情もあり、今は事業着手の見通しが立ちにくい状況であることも理解していただきたい。③当面の対応としては、局所的な浸水箇所へ移動式の排水ポンプを配置すること、あるいは上流域で排水路の分水や部分改修を行い、浸水対策をしっかりと講じていくことが先決。今後も県・市の施設について、適切に維持管理し、被害を最小限にとどめる取り組みをしっかりと進めていきたい。



山崎 智之 議員 (無会派)



豪雨による冠水：矢田新町地内

一般質問

■能登立国1300年に向けて

全国発信するためのロゴマークやキャッチフレーズを！

荒川議員 七尾博物館は、能登の玄関口にふさわしいものにしたいの思いだが、正式名称、入場料についてどう考えているか。また、ロゴマークは、博物館の顔となり重要なポジションを占め、キャッチフレーズも人の心を惹きつけ、市内外にアピールし印象付けるための重要な言葉である。ロゴマークとキャッチフレーズについて、どう考えているのか。

不嶋市長 七尾博物館は、世界農業遺産に認定された能登の里山里海をコンセプトに、広く来訪者に能登全体をガイドンスできるような施設と考えており、名称については、例えば、能登里山里海ミュージアムというものも一つではないかと思う。入場料については、県の施設部分は無料で自由に入ることができる交流施設になるということで、市が担う施設においても、県の施設と一体的な利用をし、施設の役割を最大限に果たしていくためにも、市の施設に収入のノルマをかけるのはいかがなものかと思つている。その辺りは、今後しっかりと意見をいただきながら検討していく。また、ロゴマークやキャッチフレーズについては、全国発信するために重要なツールであり、世界農業遺産「能登の里山里海」を強くイメージできることが必要であり、今後は広く広報等で募集し、PRしていきたい。



荒川 一義 議員 (礎)



能登歴史公園

【その他の質問項目】  
■ふるさと納税の拡充策  
■ローカルベンチャー推進事業

【その他の質問項目】  
■子育てバリアフリー  
■七尾博物館  
■ローカルベンチャー推進事業